



東京歯科大学広報



水野嘉夫理事が第8代理事長に就任

2014年6月

267号

本号の主な内容

・ 水野嘉夫理事が第8代理事長に就任	1
・ 理事長就任・退任の式挙行	3
・ 法人役員の選任・役員一覧	4
・ 平成27年度東京歯科大学入学試験要項	19
・ 平成25年度財務の概要	24

■水野嘉夫理事が第8代理事長に就任

平成26年5月31日をもって法人役員（※寄附行為第8条第1項に規定する理事を除く）が任期満了を迎えるにあたり、去る5月29日開催の第688回理事会、第235回評議員会において、寄附行為第8条第2項に規定する理事並びに寄附行為第9条に規定する監事が選任され、6月1日開催の寄附行為第8条第3項に規定する理事選任に関する会合において、寄附行為第8条第3項に規定する理事が選任された。

新役員が選任されたことに伴い、新理事による互選により、水野嘉夫理事が理事長に選任された。また、水野理事長は、寄附行為第15条に規定する「理事長の職務の代理及び代行を行う者」に井出吉信常務理事を指名した。



理事長就任・退任の式にて挨拶を述べる水野理事長：平成26年6月10日（火）、水道橋校舎新館血脇記念ホール



理事長就任・退任の式での水野理事長：平成26年6月10日（火）、水道橋校舎新館血脇記念ホール

○水野理事長の略歴

みず の よし お
水 野 嘉 夫

（昭和18年4月9日生）

- 昭和43年 3月 慶應義塾大学医学部卒業
- 昭和43年10月 第46回医師国家試験合格
- 昭和44年 1月 医籍登録(第201263号)
- 昭和44年 4月 慶應義塾大学医学部内科学教室入室
- 昭和45年 4月 中野総合病院内科に出向
- 昭和51年 9月 医学博士号の学位受領
- 昭和52年10月 慶應義塾大学医学部消化器内科医長
- 昭和54年11月 Hospital for Sick Children (Toronto, Canada) 研究所免疫部門に留学
- 昭和56年11月 慶應義塾大学医学部内科学講師
- 昭和56年12月 東京歯科大学教授
- 昭和56年12月 東京歯科大学市川病院内科部長
- 平成 4年 6月 東京歯科大学市川総合病院院長就任
- 平成 4年 6月 学校法人東京歯科大学評議員就任
- 平成 4年 6月 学校法人東京歯科大学理事就任
- 平成11年 3月 東京歯科大学市川総合病院退職
- 平成11年 4月 日本鋼管株式会社日本鋼管病院院長
- 平成14年 4月 学校法人東京歯科大学評議員就任
- 平成15年 4月 医療法人社団こうかん会理事長兼日本鋼管病院院長
- 平成18年 4月 学校法人東京歯科大学理事就任
- 平成19年 9月 医療法人社団こうかん会理事長兼日本鋼管病院名誉院長（平成23年5月迄）
- 平成23年 5月 医療法人社団こうかん会日本鋼管病院名誉院長就任
- 平成25年 6月 学校法人東京歯科大学常務理事（病院担当）就任
- 平成26年 6月 学校法人東京歯科大学理事長就任

■理事長就任・退任の式挙行

平成26年6月10日(火)午後6時より、水道橋校舎新館血脇記念ホールにおいて理事長就任・退任の式が挙行された。式の模様はテレビ会議システムで千葉校舎、市川総合病院に中継され、教職員、大学院生など多くの出席者が見守るなか、一戸達也法人主事の司会により開式となった。

はじめに、金子 譲前理事長より理事長退任の挨拶が述べられた。その後、井出吉信学長より水道橋移転事業を含む本学の発展に貢献された金子前理事長へ謝辞が述べられた。そして金子前理事長へ岡部陽子理事長秘書より花束が贈呈され、出席者から感謝の拍手が送られる中、笑顔で退場された。

引き続き、一戸法人主事より法人役員の紹介が行われた後、6月1日付で就任された水野嘉夫新理事長より理事長就任の挨拶が述べられ、式は滞りなく閉会となった。



退任の挨拶を述べる金子前理事長：平成26年6月10日(火)、水道橋校舎新館血脇記念ホール



理事長就任・退任の式に出席される法人役員：平成26年6月10日(火)、水道橋校舎新館血脇記念ホール



岡部理事長秘書(右)より花束を贈呈される金子前理事長(左)：平成26年6月10日(火)、水道橋校舎新館血脇記念ホール



出席者からの拍手の中、退場される金子前理事長：平成26年6月10日(火)、水道橋校舎新館血脇記念ホール

■法人役員を選任

○学校法人東京歯科大学理事長の選任

第8代理事長 水野嘉夫

○平成26年6月1日からの法人役員新体制

水野嘉夫 理事長(総括)

井出吉信 常務理事(学務・人事・建設担当)

熱田俊之助 常務理事(校友担当)

石井拓男 常務理事(財務・病院担当)

矢崎秀昭 常務理事(庶務担当)

鹿島隆雄 理事

金森越哉 理事

西田次郎 理事

大山萬夫 監事

松尾邦弘 監事

■役員一覧



水野 嘉夫 理事長



井出 吉信 常務理事



熱田 俊之助 常務理事



石井 拓男 常務理事



矢崎 秀昭 常務理事



鹿島 隆雄 理事



金森 越哉 理事



西田 次郎 理事



大山 萬夫 監事



松尾 邦弘 監事

○新役員の略歴

矢崎常務理事の略歴

や さき ひで あき
矢 崎 秀 昭

(昭和17年8月1日生)

昭和36年3月	東京都立青山高等学校卒業	平成12年4月	東京都新宿学校歯科医会会長
昭和42年3月	東京歯科大学卒業	平成14年1月	東京歯科大学同窓会常任理事
昭和42年4月	第41回歯科医師国家試験合格	平成16年5月	日本歯科医師会常務理事
昭和42年4月	東京歯科大学歯科補綴学第Ⅲ講座 副手	平成16年7月	歯科医師臨床研修医指導医
昭和42年7月	歯科医籍登録(第44484号)	平成18年4月	医療法人社団信厚館会矢崎歯科 医院理事長
昭和43年4月	東京歯科大学歯科補綴学第Ⅲ講座 助手	平成20年1月	東京歯科大学同窓会東京地域支 部連合会副会長
昭和47年4月	矢崎歯科医院院長	平成20年1月	東京歯科大学同窓会副会長
昭和47年4月	東京歯科大学歯科補綴学第Ⅲ講座 専攻生	平成20年4月	学校法人東京歯科大学評議員
昭和58年4月	学位受領(歯学博士東京歯科大学)	平成21年4月	日本歯科医師会監事
昭和58年4月	東京歯科大学歯科補綴学第Ⅲ講座 非常勤講師	平成21年4月	東京歯科大学臨床教授
昭和61年6月	東京都社会保険支払基金審査委員	平成22年1月	東京歯科大学同窓会東京地域支 部連合会会長
平成5年4月	日本補綴学会認定指導医取得	平成23年4月	日本歯科医師会常務監事
平成9年4月	社団法人東京都新宿区歯科医師会 会長	平成24年1月	東京歯科大学同窓会会長
平成11年4月	東京都歯科医師会学術常任委員	平成26年6月	学校法人東京歯科大学理事 学校法人東京歯科大学常務理事 (庶務担当)



理事長就任のご挨拶

水野 嘉夫

皆さん、こんにちは。ただいまご紹介いただきました水野嘉夫です。

6月1日の理事会におきまして、学校法人東京歯科大学の第8代理事長に選任されました。日にちが経つごとにその重責をひしひしと感じております。と同時に、私が理事長になったということをお聴きになった先生方、スタッフの方々は大変びっくりされたことと思います。まず始め

に今までの私と東京歯科大学との関係を若干お話したいと思えます。

私は昭和43年3月に慶應義塾大学医学部を卒業いたしました。昭和54年11月からカナダのトロント大学、Hospital for sick childrenの免疫学部門に留学しておりましたが、昭和56年10月に慶應義塾大学の恩師である故土屋雅春消化器内科教授の帰国命令があり、その年の12月に市川総合病院内科に赴任いたしました。奇しくも、この昭和56年は、東京歯科大学が水道橋校舎から稲毛の千葉校舎に移転した年であります。理事長は故鹿島俊雄先生でありました。校旗と国旗が飾られた真新しい学長室で当時の松宮誠一学長、高木圭二郎副学長にお会いしたことを鮮明に覚えております。

平成4年6月から6年間、新築された470床の市川総合病院で病院長を務めさせていただきました。この間の理事長は平成5年10月に就任された故井上 裕先生でありました。先生の心温まるご指導の下、故関根 弘学長、石川達也学長のご指示をいただきながら、千載一遇の機会と思い、全力を挙げ拡大した病院の管理運営をして参りました。その当時、誠心誠意情熱をもって病院の発展に力を貸して下さったスタッフの皆さんに心より感謝しております。当時のスタッフで今残っている方は僅かですが、私の退職後も今日の570床まで拡大した市川総合病院の発展に尽くしてくれている仲間です。

病院長退任の翌年平成11年、18年間お世話になりました東京歯科大学を退職し、4月に日本鋼管株式会社(NKK)立日本鋼管病院に病院長として赴任いたしました。平成18年より故井上 裕理事長より御招聘をいただき、日本鋼管病院長・理事長のまま学校法人東京歯科大学の理事に就任し、現在まで続けておりました。

平成23年6月に日本鋼管病院を定年退職いたしました。それ以前より当時の熱田俊之助理事長、金子 譲学長、井出吉信副学長のお誘いを受けており、悩みましたが同年7月より、常勤の理事としてのお手伝いをさせていただく決心をいたしました。本学においてはこの間の平成20年3月に、故井上 裕理事長のもと理事会にて稲毛の東京歯科大学のメインキャンパスである千葉校舎を水道橋に移転する決定がなされました。千葉移転の時に市川総合病院に赴任して30数年後の現在、都心回帰の現場にいることに、大変大きな縁を感じます。

私の尊敬する先生から、「水野さん、人生すべからく『あいうえおん』ですよ」と教わってきました。すなわち、愛(あい)と、運(うん)と、縁(えん)と、恩(おん)であります。今、全くその通りであると感じております。『あいうえおん』を大切に、この瞬間、この立場で最善の努力をしていきたいと思っております。

大学は教育と研究がメインであります。しかし、通常の方系の大学と異なり、歯科、医科の大学においては診療が加わります。この教育、研究、臨床が三位一体となり進んでいかなければなりません。

研究の場においては、本学は口腔科学研究センターをもち、歯科医科学の分野における先導的研究が行われてきております。研究・教育分野でも国際的視野が必要とされ、国際交流部の設置、姉妹校提携などを進めてきていると同時に、国内では、一昨年慶應義塾大学医学部と連携協定を締結しましたし、これからも他大学、研究機関等との提携も重要な柱になります。

教育の面では、平成17年に歯科医学教育開発センターが設立され、歯科医学教育の発展に寄与して

います。皆様ご存知のように一つの表れとして、この3年間は歯科医師国家試験合格率日本一を続け、他大学を大きく引き離しております。これは井出学長をはじめ教職員皆様の大変なご努力の成果といえます。

本学の120余年にわたる伝統の根幹をなすのは血脇守之助先生が言われたとされる「歯科医師たる前に人間たれ」です。この精神の醸成のための人間教育すなわち品性ある人間性豊かな歯科医師の養成と同時に口腔内局所のみ集中しがちな歯科治療から、医学教育を受け、全身状態を充分把握して歯科治療を行うことのできる歯科医師の養成であります。

そのために市川総合病院の存在があります。将来の日本の医療を支える先導的歯科医師の養成のための、患者さん中心の医療とは、患者さんを医療のパートナーとするコンコーダンス・モデル (concordance model) とは、などを学ぶ場である事と同時に全身状態と歯科疾患の関係、高齢化が進む社会において、多くの全身疾患を抱えた高齢者の歯科診療など歯科医師教育に大きな役割を果たしていると思います。この大切な機能を充実させるには市川総合病院の医師をはじめメディカルスタッフは、各々の分野で卓越した能力を維持・発展させるための不断の努力が必要です。また、市川市にある唯一の大病院として、地域医療の大きな担い手としての責任もあります。

歯科単科大学である本学が医科大学の附属病院のような分院をもっているということが負担となり、発展の足かせとなるのでは、先人が掲げた本学の意志の継承はできないと思います。この10数年の間の歯学・医学の接近を見逃すことはできません。いかに口腔内の出来事が全身疾患に及ぼしているか？ また逆もあり、生命の危機・予後にまで及んでおります。今こそ歯科・医科の融合が一番求められており、この分野こそ本学が先導的役割をなしていくものと思います。

さて、今まで縷々述べてまいりましたことが集約され、今現在本学が直面する最も大切かつ重要なことは水道橋移転事業を成功させることです。西棟建築場所の取り壊しも順調に行っており三年後には本館を含めた2期工事も終了する予定です。この間教職員の皆様には、大変なご苦勞、ご心痛をおかけすることと思います。どうかご理解・ご協力をいただき、全教職員が一致団結して、日本の歯科大学の雄である本学で学び成長する事に誇りを持ち、このよき伝統を受け継ぐ人材が育成され続けていくことを強く願い、大きな将来に向かって寄与したいものです。

最後に、今日一日、教育、研究、診療の後のお疲れの時間にお集まりをいただき有難うございました。お疲れ様と言って私の就任の挨拶いたします。

「お疲れ様でした。」 有難うございました。



理事長退任のご挨拶

金子 譲

学校法人東京歯科大学の退職にあたりご挨拶を申し上げます。私が本学に入学したのは昭和33（1958）年で、ちょうど本学の大学院が始まった時でした。学生時代を含めて56年間お世話になったこととなります。

私が石川達也学長の後継を井上理事長から任命された時期は、歴史的な教育改革でもあった大学大綱化が軌道にのり、文科省行政が各種の大型プロジェクトによって研究教育成果を争わせる新規企画を多数提示したときでありました。幸いにして就任早々に教育プロジェクトに難関を突破して採択されたことや、前任の水道橋病院長として積年の課題であった赤字を4割にまで縮小した勢いもあり、本学の針路を「競争と連携」という文科省方針に沿い、大学移転を見据えて「高機能低経費のハイブリッド大学」への衣替えを目標としました。この実行には教職員の協働なくしては成就されないことから、人事での公平性、情報の透明性と共有を根底においた運営を意図しました。そして、教育研究診療のいずれにとっても、その成果を共有する事が仕事のエネルギーになり、困難を乗り越えるためには目標の明示と東京歯科大学の魂に訴えることが必須であると考えましたので、現状把握の資料を作成し大学広報を媒体にして私の考えを伝達するようにしました。翻ってこうした歴代首脳の大学運営に対する事後評価を客観的に行い、また文書として記録する風土は本学にありませんが、前車の轍を踏まない学習方策として先人の軌跡が読み取れるアーカイブスが必要だと感じています。

学務から経営母体の学校法人への専任で、健全な法人のあり方に留意し模索しました。財務構造の変革、具体的には歯科病院の運営に抜本的な変革をしない限り明日にはつなげられないことや、その他当然多種多様な課題が山積しています。しかし、時代の移り方は早く、もはや私の力量では法人理事会・評議員会を総理できないと判断しましたので今回理事長を辞任いたしました。

母校を去るに当たりまして2つのこととお話しさせていただきます。

20世紀は、急激な科学進歩と戦争の時代であったといえます。その20世紀末に、来るべき21世紀は「知識基盤社会」であると予測され、今日それにたがわぬ時を迎えております。こうした社会は、グローバリゼーションの進展、知識の進歩によった競争と技術革新、知識の進展によったパラダイム転換、このため幅広い知識と柔軟な思考力に基づく判断力の必要性、そして性別・年齢に関わりない社会参画の促進などを特徴としています。この世界の潮流に、少子超高齢、人口減少などの日本構造が一体となって、大学も皆さんの将来も形成されていくものと思います。

本学は、昭和21（1946）年に本邦で最初の旧制歯科大学設置の名誉を担っています。その1年後の昭和22年に東京歯科大学同窓会報が創刊号として発刊されました。この巻頭には、「東京歯科大学建学の目的」が記されております。第一に、わが国最高の研究教育機関として、高能率施設とすべきこと、第二に、国民の健康福祉増進に専念する指導力ある人材育成を期すべきこと、としています。このための方針が、11項目にわたり記載され、現行においても質担保の指針になり得る先見性であります。その中には市川総合病院の建設と総合大学化が挙げられています。上記二つの事柄は、建学の精神に基づき時代に合わせた本学運営にとって、現在と過去を繋ぎさらに将来を外挿するために、意識しておくべき鳥瞰的な視点であろうと感じています。

学生時代は陸上競技に明け暮れ、卒後は一転して歯科麻酔学の新しさに惹かれ、また無我夢中で臨床や教育研究に努め、定年に達したとき以後の10年間を学長理事長の席に着かせて頂きました。ことに井上 裕元理事長が決断された水道橋への大学移転の大事業に尽力できたことは光栄でありました。力不足ではありましたが、学内外の活動に数々の機会を与えてくださった母校の懐の深さに深謝する次第です。長きに亘ってご指導を頂いた恩師・先輩、並びに様々な立場にあって協働し、また協力をして下さった教職員の皆様に深甚なる敬意と感謝の意を表すると共に、今後のご発展を衷心より祈念いたします。

<略歴>

歯学博士

東京歯科大学名誉教授
学校法人東京歯科大学 前理事長・前学長
学歴

昭和33年 4月 東京歯科大学入学
昭和39年 3月 同卒業
昭和39年 4月 歯科医師国家試験合格

職歴

昭和43年 4月 東京歯科大学助手 歯科麻酔学講座
昭和43年12月 東京大学医学部麻酔学教室(山村秀夫教授)に内地留学(～昭和44年5月)
昭和45年 4月 東京歯科大学講師 歯科麻酔学講座
昭和45年 7月 神奈川県立こども医療センター非常勤麻酔科(～昭和51年3月)
昭和48年 4月 東京歯科大学助教授 歯科麻酔学講座
昭和56年 3月 学命により海外研修(～昭和56年7月)米国フロリダ大学歯学部客員助教授(1ヶ月間)
昭和56年 4月 山形大学医学部非常勤講師(～平成17年3月)
昭和61年 7月 国際協力事業団より専門家(歯科麻酔学)としてインドネシア国パジャジャラン大学に派遣される(～昭和61年9月)
昭和62年 7月 東京歯科大学教授 歯科麻酔学講座(～平成23年6月)(非常勤等)
平成10年 4月 慶應義塾大学医学部非常勤講師(麻酔科)(～現在)

学内役職等

平成 3年 1月 東京歯科大学 歯科麻酔学講座主任(～平成16年3月)
平成 7年 6月 東京歯科大学大学院 歯学研究科長(～平成10年5月)
平成10年 6月 東京歯科大学水道橋病院院長(～平成16年5月)
平成11年 7月 学校法人東京歯科大学 法人主事(～平成16年5月)
平成14年 3月 東京歯科大学 副学長(～平成16年5月)
平成16年 6月 東京歯科大学 学長(～平成23年6月)
平成20年 4月 東京歯科大学口腔科学研究センター所長(～平成21年3月)
平成23年 6月 学校法人東京歯科大学 理事長(～平成26年5月)

学会・その他社会活動

<文部科学省関係>

平成11年 1月 学術審議会専門委員 科学研究費分科会(～平成12年1月20日)
平成12年 1月 日本学術振興会 科学研究費委員会専門委員(～平成12年12月)
平成18年 8月 日本学術会議連携会員(歯学分野)(～平成23年9月)
平成20年 7月 歯学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議委員(～平成22年3月)

<厚生労働省関係>

平成 8年 7月 医療関係者審議会 歯科医師部会員(～平成10年7月)
平成 8年 7月 歯科医師国家試験出題基準改訂委員会委員(～平成10年7月)
平成 9年11月 中央薬事審議会臨時委員(歯科用剤再審査再評価調査会調査員、歯科用薬剤調査会調査員)(～平成12年12月)
平成13年 1月 薬事・食品衛生審議会専門委員(～平成17年1月)
平成13年 5月 21世紀型医療開拓推進研究事業・EBM分野事前評価小委員会委員(～平成14年3月)
平成13年11月 厚労省特別研究事業「歯科医師の麻酔科研修のガイドライン策定に関する研究」主任研究者(～平成14年4月)
平成16年 9月 行政処分を受けた医師に対する再教育に関する検討会委員(～平成17年)
平成18年12月 医道審議会専門委員(歯科医師分科会歯科

医師国家試験制度改善検討部会委員)
(～平成20年12月21日)

<歯科関係(国内)>

平成 3年 4月 日本歯科医師会雑誌編集委員長(～平成9年3月)
平成 4年11月 第20回 日本歯科麻酔学会 総会会長
平成 6年 1月 日本歯科麻酔学会 理事長(～平成12年度まで3期)
平成12年 4月 日本歯科医学会 副会長(～平成15年3月)
平成12年10月 第17回 日本障害者歯科学会 学術大会長
平成18年 4月 日本歯科医学会 専門医制協議会 委員長(～平成21年3月)
平成18年 4月 日本歯科医学会 心肺蘇生法歯科医療関係者研修検討委員会 委員長(～平成21年3月)
平成18年 6月 日本私立歯科大学協会 副会長(理事)(～平成21年3月)
平成20年 4月 日本私立大学連盟 医・歯・薬学教育研究推進会議幹事会委員長(～平成22年3月)
平成21年 4月 日本歯科医学会顕彰審議会委員委員長(～平成23年3月)

<歯科関係(海外)>

平成12年 3月 International Association for Dental Research 麻酔グループ会長(～平成13年6月)
平成17年12月 台湾特殊需求者口腔照護學會 第一屆會務顧問
平成18年10月 第11回 国際歯科麻酔学会議 学術大会長
平成18年10月 国際歯科麻酔学連合(IFDAS) 会長(～平成21年10月)
平成19年 5月 社団法人中華民国牙醫師公會全國聯合會會務顧問
平成19年10月 アジア歯科麻酔学連合(FADAS) 会長(～平成19年12月)、第1回学術大会会長
平成19年11月 アメリカ歯科麻酔学会(ADSA) 生涯教育非常勤委員(～平成21年5月)
平成22年 1月 鄭州大学口腔医学院名誉院長・口腔医学研究所名誉所長
平成22年 1月 International Sedation Task Force, World SIVA 委員(～現在)
平成23年 8月 Alliance for Oral Health Across Boarders 理事(～平成26年)
平成23年 8月 International Journal of Dentistry, Special Issue, Lead Guest Editor
平成23年10月 International Digital Technology of Head and maxillofacial Reconstruction 日本部会理事長(～現在)

<医科関係>

平成 6年11月 日本臨床麻酔学会 評議員(～平成16年)
平成11年 5月 第11回日本臨床モニター学会 会長(～平成12年4月)
平成11年 5月 日本麻酔科学会 評議員(～13年)
平成15年 2月 (財)日本救急医療財団 心肺蘇生法委員会委員(～平成22年3月)
平成16年 6月 第26回 日本麻酔・薬理学会 学術大会長
平成17年11月 第9回 日本医療ガス学会 学術大会長
平成23年12月 一般社団法人臨床ゲノム医療学会会長(～平成14年11月)

賞罰

平成15年10月 日本障害者歯科学会功労賞
平成16年10月 日本歯科麻酔学会賞
平成17年 7月 感謝状(臺北縣政府より 北府衛保字第0940047765號)
平成18年10月 Horace Wells 賞(国際歯科麻酔学連合より)
平成19年 1月 日本歯科医学会会長賞
平成20年 5月 American Society of Dentist Anesthesiologists, Monheim賞
平成21年 4月 American Dental Society of Anesthesiology, Heidbrink賞

学務等役職者一覽

任命期間：平成25年6月1日～平成28年5月31日（定年退職者は当該日まで）

平成26年6月1日

※診療科部長・診療科科長・教育主任の任命期間は平成27年5月31日迄

（敬称略・順不同）

役 職	氏 名	役 職	氏 名
<寄附行為規定役職者等>		<水道橋病院>	
学 長	井 出 吉 信	副 病 院 長	櫻 井 薫
副 学 長	石 井 拓 男	副 病 院 長	山 下 秀 一 郎
副 学 長	一 戸 達 也	副 病 院 長	高 野 正 行
水 道 橋 病 院 長	矢 島 安 朝	総 合 歯 科 部 長	山 下 秀 一 郎
市 川 総 合 病 院 長	西 田 次 郎	保 存 科 部 長	齋 藤 淳
千 葉 病 院 長	井 上 孝	小 児 歯 科 部 長	新 谷 誠 康
大 学 院 歯 学 研 究 科 長	田 崎 雅 和	口 腔 外 科 部 長	柴 原 孝 彦
歯 科 衛 生 士 専 門 学 校 長	井 上 孝	口 腔 外 科 部 長 代 理	高 野 正 行
		歯 科 麻 酔 科 部 長	一 戸 達 也
		補 綴 科 部 長	佐 藤 亨
図 書 館 長	櫻 井 薫	矯 正 歯 科 部 長	末 石 研 二
副 館 長	-	矯 正 歯 科 部 長 代 理	片 田 英 憲
分 館 長	青 柳 裕	放 射 線 科 部 長 代 理	和 光 衛
分 館 長	加 藤 哲 男	口 腔 イ ン プ ラ ン ト 科 部 長	矢 島 安 朝
口 腔 科 学 研 究 セ ン タ ー 所 長	石 原 和 幸	ス ポ ー ツ 歯 科 科 長	石 上 恵 一
副 所 長	齋 藤 淳		
教 養 科 目 協 議 会 幹 事	橋 本 正 次	摂 食・嚥 下 リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン・地 域 歯 科 診 療 支 援 科 科 長	石 田 瞭
基 礎 教 授 連 絡 会 幹 事	石 原 和 幸	障 害 者 歯 科 科 長	大 多 和 由 美
臨 床 教 授 連 絡 会 幹 事	末 石 研 二	内 科 科 長	仁 科 牧 子
教 務 部 長	河 田 英 司	眼 科 科 長	ビ ッ セ ン 弘 子
副 部 長	望 月 隆 二	臨 床 検 査 部 長	井 上 孝 一
副 部 長	片 倉 朗	臨 床 検 査 部 長 代 理	松 坂 賢
副 部 長	山 本 仁		
副 部 長	平 田 創 一 郎	<市川総合病院>	
学 生 部 長	佐 藤 亨	副 病 院 長	高 野 伸 夫
副 部 長	新 谷 誠 康	副 病 院 長	菅 貞 一郎
副 部 長	古 澤 成 博	副 病 院 長	松 井 淳 一
副 部 長	森 田 雅 義	副 病 院 長	小 坂 橋 淳 哉
副 部 長	杉 原 直 樹	副 病 院 長	濱 野 孝 子
研 究 部 長	石 原 和 幸	企 画・調 査 部 長	高 野 伸 夫
副 部 長	村 松 敬	歯 科・口 腔 外 科 部 長	片 倉 朗
国 際 交 流 部 長	阿 部 伸 一	内 科 部 長	野 川 茂
学 会・学 術 出 版 部 長	新 谷 誠 康	消 化 器 内 科 部 長	西 田 次 郎
学 会 部 主 任	笠 原 正 貴	消 化 器 内 科 部 長 代 理	岸 川 浩
歯 科 学 報 主 任	石 原 和 幸	循 環 器 内 科 部 長	大 木 貴 博
欧 文 紀 要 主 任	齋 藤 淳	神 経 内 科 部 長	野 川 茂
研 究 機 器 管 理 部 長	吉 成 正 雄	呼 吸 器 内 科 部 長	寺 嶋 毅
環 境 安 全 管 理 部 長	杉 原 直 樹	小 児 科 部 長	江 口 博 之
実 験 動 物 施 設 管 理 部 長	田 崎 雅 和	外 科 部 長	松 井 淳 一
広 報・公 開 講 座 部 長	橋 本 貞 充	脳 神 経 外 科 部 長	菅 貞 一郎
臨 床 教 育 委 員 長	佐 藤 亨	心 臓 血 管 外 科 部 長	甲 範 圭
臨 床 研 修 委 員 長	古 澤 成 博	整 形 外 科 部 長	白 石 建
総 合 講 義・実 習 委 員 長	平 田 創 一 郎	リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 科 部 長	新 井 健
臨 床 基 礎 実 習 室 運 営 委 員 長	齋 藤 淳	産 婦 人 科 部 長	高 松 潔
健 康 管 理 セ ン タ ー 主 任	仁 科 牧 子	眼 科 部 長	島 崎 潤
情 報 シ ス テ ム 管 理 委 員 長	河 田 英 司	耳 鼻 咽 喉 科 部 長	中 島 庸 也
歯 科 医 学 教 育 開 発 セ ン タ ー 主 任	河 田 英 司	泌 尿 器 科 部 長	中 川 健 裕
		放 射 線 科 部 長	青 柳 裕
		皮 膚 科 部 長	高 橋 慎 一
		形 成 外 科 部 長	田 中 一 郎
<大学院研究科>		麻 酔 科 部 長	小 坂 橋 俊 哉
教 務 部 長	東 俊 文	精 神 科 部 長	森 本 陽 子
学 生 部 長	齋 藤 淳	臨 床 検 査 科 部 長	宮 内 潤
		市 川 総 合 病 院 歯 科 教 育 主 任	片 倉 朗
		市 川 総 合 病 院 医 科 教 育 主 任	寺 嶋 毅
移 転 部 会 統 轄 部 長	石 井 拓 男	角 膜 セ ン タ ー 長	島 崎 潤
		リ プ ロ グ シ ョ ン セ ン タ ー 長	吉 田 丈 児
		口 腔 が ん セ ン タ ー 長	高 野 伸 夫
<歯科衛生士専門学校>		<千葉病院>	
副 校 長	高 橋 俊 之	副 病 院 長	柴 原 孝 彦
教 務 部 長	杉 山 哲 也	副 病 院 長	末 石 研 二
学 生 部 長	久 永 竜 一	副 病 院 長	高 橋 俊 之
予 防 処 置 室 長	高 橋 俊 之	副 病 院 長	高 橋 俊 之
教 務 主 任	白 鳥 た か み (平成26年4月1日～平成27年3月31日)	口 腔 外 科 系 部 長 (口腔外科、歯科麻酔科、放射線科)	柴 原 孝 彦
		育 成 歯 科 系 部 長 (矯正歯科、小児歯科)	末 石 研 二
		一 般 歯 科 系 部 長 (保存科、補綴科、総合診療科)	高 橋 俊 之
		専 門 歯 科 系 部 長 (口腔インプラント科、顎咬合部、摂食嚥下リハ、産婦人科、口腔ケアセンター)	井 上 孝
		内 科 科 長	大 久 保 剛
		總 合 予 診 室 長	高 橋 俊 之
		千 葉 病 院 教 育 主 任	末 石 研 二

学内ニュース

■平成26年度解剖諸霊位供養法会開催

平成26年6月4日(水)午後2時30分より、平成26年度解剖諸霊位供養法会が執り行われた。

本年度は会場を水道橋校舎新館血脇記念ホールに移し、井出吉信学長はじめ大学幹部、関係教職員、第3学年学部学生、ご遺族ならびに東京歯科大学白菊会の方々が参列する中、歯科医学教育と研究のため尊いご遺志を持って献体戴いた諸霊位に対し感謝の意を捧げ、ご冥福をお祈りした。本学開設以来4千有余柱の御霊に向かい、真珠院石井道彦導師により誦経が行われ、井出学長が祭文を奉読したのち参列者による献花が行われた。

つづいて、学生を代表して第3学年の下山圭太さんよりご遺族に対して挨拶があり、次に、ご遺族を代表して福山久子様よりご挨拶を戴き、本年度の解剖諸霊位供養法会は滞りなく終了した。

その後、ご遺族ならびに大学関係者が、文京区小石川の真珠院を墓参し散会となった。



祭文を奉読する井出学長：平成26年6月4日(水)、水道橋校舎新館血脇記念ホール

■第297回東京歯科大学学会例会開催

平成26年6月7日(土)、水道橋校舎新館において、第297回東京歯科大学学会例会が開催された。口演23題は第1・2講義室で、示説7題は第2実習講義室を会場として各々発表された。13時から14時まで第2講義室において、歯科矯正学講座の内田悠志助教と生化学講座の齋藤暁子助手による学長奨励研究賞受賞講演が行われた。引き続き14時10分から16時20分まで同教室において、4教授による以下の特別講演が行われた。

1. 「大腸癌の動向と治療法の現況」

大久保 剛 教授(東京歯科大学千葉病院内科学)

2. 「市川総合病院の機能を活かしたTranslational Researchの構築」

片倉 朗 教授(東京歯科大学オーラルメディスン・口腔外科学講座)

3. 「歯周組織再生の現在とこれから」

齋藤 淳 教授(東京歯科大学歯周病学講座)

4. 「欠損歯列に対する咬合からのアプローチ」

山下秀一郎 教授(東京歯科大学口腔健康臨床科学講座)

また、12商社の参加による商品展示が第2実習講義室で行われた。

■実験動物供養祭開催

平成26年6月13日(金)午前10時40分より、水道橋校舎新館血脇記念ホールにおいて、平成26年度実験動物供養祭が執り行われた。

供養祭は、本年度より真珠院住職の読経に始まり、井出吉信学長が祭文を奉読された。

歯科医学の発展のためとはいえ、教育・研究にその生命を捧げた動物諸霊に対し深く哀悼と感謝の意を込め、教職員、大学院生、臨床研修歯科医、第3学年学生代表が順次献花を行い、滞りなく終了した。



献花を行う学生：平成26年6月13日(金)、水道橋校舎新館血脇記念ホール

■平成26年度緩和ケア研修会開催

東京歯科大学市川総合病院は平成20年2月に地域がん診療連携拠点病院の指定を受けている。がん診療連携拠点病院には、がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会を毎年開催することが義務付けられていることから、昨年に続き6回目の研修会を平成26年6月14日(土)・15日(日)の両

日に市川総合病院講堂において開催した。

がん診療連携拠点病院が行う緩和ケア研修会は、院内だけではなく地域の医療従事者も対象にすることから、学外の勤務医・開業医に対しても県や医師会・歯科医師会を通して広く募集を呼び掛け実施された。参加者は学内外から医師12名、歯科医師11名、看護師1名、の合計24名と参加者に対して、7名のファシリテーターを迎えての研修会となった。

研修会の内容は、講義とロールプレイ、ワークショップで構成されており、講義では「緩和ケア概論」や「がん性疼痛」、「呼吸困難」、「消化器症状」、「精神症状（抑うつ、せん妄）」、「コミュニケーション」について解説され、「疼痛事例検討」や「オピオイドを処方するとき」、「コミュニケーション」、「地域連携」ではグループ討議やロールプレイが熱心に行われた。緩和医療は患者やその家族の辛さに焦点が当てられているが、がん診療を行っている医療者のケアも重要な要素である。今回のような研修会は、日常のがん診療、特に疼痛緩和などで困っている医師に対しては極めて有効であることから、今後もがん診療連携拠点病院としての役割を担って行きたい。



講義風景：平成26年6月14日（土）、市川総合病院講堂



グループ演習風景：平成26年6月15日（日）、市川総合病院講堂

■第134回歯科医学教育セミナー開催

平成26年6月16日（月）午後6時より、水道橋校舎本館第1講義室において、第134回歯科医学教育セミナーが開催された。今回は、「新入生（編入学生を含む）の現状について」と題し、第1学年主任の加藤哲男教授、第2学年主任の森田雅義教授、教務副部長の望月隆二教授より説明がなされた。

はじめに、第2学年主任の森田教授より編入生の現状について報告があった。今年度の編入学生は15名で、今までで一番多い人数であると紹介があった。また、第2学年次編入という関係で受講することが出来ない「歯科医学概論」や「理科系科目の補習」授業については、関係教職員の協力もあり、滞りなく受講することが出来ていて、編入生たちも非常に満足していると説明があった。5月末に取った通学時間や部活動、学校生活等についてのアンケートの結果からは、新生活に不安を抱えているところがあるが、将来に大きな期待を抱いている学生が多く、これからも様子を見ながら修学指導にあたっていきたいと説明があった。

つづいて、第1学年主任の加藤教授より新1年生の現状と学外セミナーについて報告があった。まず、学生数について、男子が59名、女子が73名ということで、例年と比較しても女子学生の方がかなり多いと紹介があった。つぎに、今日に至るまでの流れということで、推薦入学者を対象とした「学習成果確認および本学教員による解説授業」、「新入生オリエンテーション」、「フレッシュマンセミナー」、「入学式」、「プレースメントテスト」について紹介があり、「プレースメントテスト」の結果については、授業のクラス分けや集中補習に反映させ、レベルに合わせた学習指導ができるように活用していると説明があった。また、自然科学演習については生物、物理、化学の各分野で行われており、授業中に実施される試験結果から補習を行っているという説明があった。学外セミナーについては、スケジュールの紹介があり、その内容に合わせて、学生の様子について写真や学生の感想を入れながらわかりやすく説明が行われた。最後に、クラブ活動やアルバイト、大学生活や友人関係、授業についてアンケートを取った結果と面談を行っていく中で抽出された今後の問題点を合わせた修学指導における対応策について

説明があった。

教務副部長の望月教授からは、基礎理解度テスト等の結果について説明があった。まず、基礎学力テストについては、中学校以下で習う知識を常識的な問題を含めて2009年度から実施され、プレースメントテストについては大学での講義を受けるために必要となる知識がどの程度あるかを問う内容で、クラス分けをするためのテストであると紹介があった。今年度の結果から学力の分散はやや大きくなっていて、プレースメントテストの平均点がやや向上しているところから、成績下位グループが減少したわけではないが、上位グループがさらに高得点をあげている傾向があると説明があった。今後は、成績下位グループに対する、個別の補習や学習指導を整備していくことも当然のことであるが、補習対象者以外の成績下位者を含めた対策も必要になっていくと説明があった。

当日はテレビ会議システムで千葉校舎にも中継された。多くの参加者が集まり、質疑応答も活発に行われ大変有意義なセミナーとなった。



説明する加藤教授：平成26年6月16日（月）、水道橋校舎本館第1講義室

■父兄会定時総会・修学指導方針説明会開催

平成26年6月21日（土）午後1時より、水道橋校舎新館血脇記念ホールにおいて、平成26年度父兄会定時総会が開催された。総会には約500名の保護者が出席した。

総会は、石井俊昭副会長の開会の辞で始まり、本年4月に父兄会長に就任した荻原俊美会長から新任の挨拶と施政方針などが述べられた。井出吉信名誉会長（学長）から挨拶を頂いた後、第6学年保護者の矢島正隆氏が議長に選出され、議事が進められた。

平成25年度会計収支決算、平成26年度父兄会

事業計画、会計収支予算（案）、傷害共済基金支出（案）などが審議され、いずれも提案どおり承認可決された。引き続き父兄会役員の任期満了に伴う改選の審議に移り、慣例に従って選考委員会が設置され、同委員会の推薦を受けて平成26年度父兄会役員が下記のとおり選任された。（業務分担任はつぎのとおり）

会 長：荻原俊美

副 会 長：高崎一郎、石井俊昭、飯島俊一

常務理事（庶務）：福田伸一、原島 晃

常務理事（会計）：中川雅晴、村上雅一

常務理事（奨学）：石 和久、瀧上恵美子

常務理事（傷害）：松崎英雄

常務理事（広報）：小林容子、丹沢朝彦、藤関雅嗣

理 事：清水 泰、山口和彦、阿部真理、

伴野和夫、鈴木千枝子、黒河宏之、

鈴木幸一、森 正浩、山田由美子、

安藤雄一、渡辺和弘、大内仁之、

芹澤誠一、石井みわ、大西泰斗

監 事：小林一公、寺本信三



修学に関する説明をする井出学長：平成26年6月21日（土）、水道橋校舎新館血脇記念ホール



総会で挨拶をする荻原父兄会長：平成26年6月21日（土）、水道橋校舎新館血脇記念ホール

なお、当日は総会に先立ち、午前9時から本館13階において学年主任・副主任による三者個別面談会も実施された。

午後2時20分から保護者を対象にした大学主催による修学指導方針説明会が開催され、井出学長

から大学の修学に関する総括説明、一戸達也副学長から学生指導の基本方針、河田英司教務部長から勉学に関する指導指針、佐藤 亨学生部長から学生生活に関する指導方針について、それぞれの立場から説明が行われた。

トピックス

■村上正治大学院生 日本老年歯科医学会総会で優秀口演賞を受賞

平成26年6月12日(木)から13日(金)までの2日間、日本老年歯科医学会総会が福岡県・電気未来ホールにて開催され、オーラルメディスン・口腔外科学講座の村上正治大学院生が課題口演「口腔機能」のカテゴリで優秀口演賞を受賞した。

今回の学術大会では、10題の課題口演、53題の一般口演、159題のポスター発表が行われた。優秀口演賞は事前の書類審査を通過した演題を介護・介護予防・連携医療・地域連携と口腔機能のカテゴリに分け、10分間の口演と5分間の質疑応答による審査を得て、それぞれのカテゴリの中から最優秀者に授与されるものである。

受賞演題名は「日本人地域在住高齢者における咀嚼機能とサルコペニアの関連性について」であり、村上大学院生の学位論文である。東京都健康長寿医療センターとの共同研究で加齢に伴う全身の筋肉の減弱(サルコペニア)と咀嚼機能との関連性を統計学的に検討した研究内容である。

近年、介護予防をより効果的に展開するため、要支援、要介護になる前段階である“虚弱”の概念が提唱され、虚弱予防対策が検討されている。その虚弱の主要因であるサルコペニアは、昨今の日本の超高齢者社会において必須の概念であり、早急な対策が必要とされているが、咀嚼機能との関連性について詳細な検討を行った報告はない。今回、地域在住高齢者を対象として、サルコペニアと咀嚼機能の関連性をロジスティック回帰分析にて検討し、咀嚼機能が既知の関連因子である年齢と同程度のオッズ比で関連していることを認めた。

本研究は、これまでの虚弱予防対策に加えて、咀嚼機能といった口腔関連項目も重要であることを示す根拠データとなり、包括的な視野で今後の

ヘルスプロモーションを進めるための一助になるデータであることが評価され受賞に至ったと考えられた。また、共同演者としてポスター発表においても2演題、優秀ポスター賞に選出された。演題名は「地域在住高齢者を対象とした大規模口腔実態調査報告」と「地域在住高齢者の咀嚼機能低下と咀嚼困難感の背景因子の検討」であり、地域在住高齢者を対象とした研究が学会として注目されていることが改めて確認され、今後の更なる研究が期待される。



受賞した村上大学院生：平成26年6月12日(木)、電気未来ホール、福岡市

長期海外出張報告

■口腔外科学講座 助教 大金 寛

この度、中華人民共和国の首都・北京市にある北京大学口腔医学院に、平成25年12月から平成26年5月までの半年間(180日間)長期出張を致しましたので、ご報告致します。

北京市は、上海市や天津市、重慶市と並ぶ、行政上では何処の省にも属することなく中国中央政府に直接統括される4つの直轄市のひとつです。華北というエリアで、中国の東部、河北省の中央に位置し、古くは大都・燕京・北平とも呼ばれていました。緯度的には、日本の岩手県とほぼ同緯度で、面積は日本の四国に相当する広がりを持っています。

中国は世界でも有数の観光地であり、世界遺産の数は45個とイタリアの49個に次ぎ世界第2位の数を有しています。北京市内には、映画「ラストエンペラー」で使用された紫禁城(故宮)や万里の長城など歴史的価値のある建造物が多く6つの世界遺産が点在しております。

そんな都市の中心地にある同院ですが、平成21年8月に本学との姉妹校提携をしております。姉妹校提携以前からも当教室とは交流があり、当教室からは山本信治講師、澁井武夫講師(現オールメディシン・口腔外科学講座)がそれぞれ出張しております。また私の行く半年前の期間(平成25年6月～平成25年11月)で薬師寺 孝講師が出張しております。

同院は、中国でも有数の歯科・口腔外科・顎顔面外科の病院であります。中国全土より様々な症例の患者が同院を訪れ、年間の来院患者数は10万人を超え、入院手術件数は約6,000件にのぼります。それゆえ夜間や休日の昼間にも関わらず、

翌日の診療を求めて病院前に行列ができるほどです。同院では、口腔外科領域の入院病棟が5病区あり1病区が顎変形症、2病区が外傷と腫瘍、3病区と4病区が腫瘍、5病区が唇顎口蓋裂とそれぞれ専門分野ごとに分かれております。私は、その中で2病区顎顔面外科分野の蔡 志剛教授のもとで研鑽を積ませていただきました。

私の所属した2病区の医局員は、蔡教授を含めた4名の教授、3名の助教と3名のレジデントで構成されています。その他に学生、大学院生、他施設からの研修医が配属され診療にあたっています。2病区では主に、腫瘍切除と顎骨・軟組織の再建手術ならびに顎顔面領域の外傷の手術を専門としております。

私は主に興味のある腫瘍再建分野の手術を中心に見学しておりました。口腔癌の進行癌症例に対する外科治療において術後の形態回復と機能障害・審美障害を最小限にするため、機能面、形態面を補う目的で有茎皮弁ならびに遊離皮弁による再建術が行われます。その遊離皮弁の中に橈側前腕皮弁があります。橈側前腕皮弁は、別名Chinese Flapとも言われ1978年にYangらにより中国国内で報告された後、世界に広まった皮弁で特に口腔内再建・頭頸部再建に使用されております。その再建分野の本場で、私はこの半年間で、前腕皮弁を含む再建手術を100例以上経験致しました。また蔡教授の計らいで見学だけでなく多くの再建手術に参加することができ、実際に手技をご指導いただき執刀する機会にも恵まれました。このような経験を短期間で積むことは現在の日本においては不可能であり、中国全土より症例が集まる北京大学口腔医学院でなければこのような経



翌日の診療待ちの行列：休日の病院前の風景



蔡教授(左)と単小峰助教(右)とともに

験はできなかったと感じています。

今回、長期出張を経験し、腫瘍再建の手術手技を学んだだけでなく、中国の人の考え方、文化を学びまた同院には世界中から多くの留学生が訪れており、様々な国の考え方や思想にも触れることができ大変有意義なものでした。今後はこの経験

を生かし更なる医学的な知識と技術の向上はもちろんのこと、医局員や学生に、私が肌で感じてきたこと学んできたことを伝えていければと思います。最後に、このような機会を与えていただきました関係各位の方々には厚く御礼申し上げます。

図書館から

■本学教員著書リスト

(本学の教員名が標題紙に記載されているものに限定)

阿部伸一 著 治療用義歯を用いた総義歯臨床
松風 2014

○本学教員の著書については、特に収集に努めております。著書発刊のおりには、図書館へ、ご一報くださいますようお願いいたします。

■「医学文献検索に役立つデータベースを使いこなすための文献検索講習会」を開催

平成26年6月、「医学文献検索に役立つデータベースを使いこなすための文献検索講習会」を本館図書館グループ学習室にて開催した。期間中5回開催され、6月中にのべ17名の参加があった。「読みたい論文を最速で入手する！」をキーワードにデータベースを効率よく検索し、図書館で論文を短時間で入手する方法を、パソコンを使った実習形式で説明した。

「医中誌 Web」「PubMed」については、それぞれ基礎編・応用編を設け、ほかには「Scopus」を1

コマ30分程度で解説・演習を行った。アンケートでは、ほとんどの方が今回の講習会の内容について、今後文献検索を行う上で「大変役に立つ」または「役に立つ」と回答しており、好評を得た結果となった。

※期間外での受講申し込みが多数ありました。今後は、期間を設けず受け付けることとしましたので、受講を希望される方は、図書館まで随時ご連絡ください。



医学文献検索講習会の風景：平成26年6月11日（水）、水道橋校舎本館図書館 グループ学習室

歯科衛生士専門学校ニュース

■歯科衛生士専門学校 学校説明会開催

平成27年度の東京歯科大学歯科衛生士専門学校への入学希望者を対象とした、第1回と第2回の学校説明会が平成26年5月31日（土）と6月28日（土）に行われた。

この説明会は、歯科衛生士の職業を理解してもらい、本校の特徴を説明し、できるだけ多くの受験生を募る目的で実施しているものである。第1回には43名の志願予定者と23名の保護者が、第

2回には36名の志願予定者と23名の保護者が参加した。第1回と第2回を合わせると79名の志願予定者と46名の保護者の参加があり、昨年に行った第2回目までの学校説明会と比べて20名ほど参加者が増加した。また本校では社会人特別選抜枠を設けていることから、これまでに10名の社会人の参加がみられた。

説明会では、教員と2・3年生の学生により歯科衛生士の職務・将来性、本校の特色、学生生活

などについて、スライドを交えて紹介を行った。その後実習室で、最新の設備を用いた臨床基礎実習のデモンストレーションを行った。次いで大学の各施設と千葉病院の見学を行い、本学が歯科大学に併設されていることのメリットを伝えながら、充実した設備を見てもらった。また、専門性を有した講師陣によるレベルの高い教育の実態、そして就職に関しては多くの求人があり、中でも大学病院・総合病院、企業等へ就職率が高い現状

などを伝えた。最後に、学校説明会終了後には、志願予定者の入学試験、学校生活、学費・奨学金、授業内容、歯科衛生士業務などについての質問を、教員および事務員による相談会を開催し、細かな対応を行った。

学校説明会終了後のアンケートでは、実際の学校施設を見学すると共に教員や学生と接することができたことで、学校の雰囲気がよくわかり参加して良かったとの意見が多く聞かれた。

人物往来

■国内見学者来校

水道橋校舎・水道橋病院

- 東京歯科大学富巴会(昭和40年卒業生 15名)
平成26年6月28日(土)さいかち坂校舎、水道橋校舎新館、および水道橋病院見学

市川総合病院

- 公益社団法人 日本臓器移植ネットワーク東日本支部(研修生3名)
平成26年6月6日(金)角膜センター見学
- 順天堂大学医学部公衆衛生学教室(教員1名、学生9名)
平成26年6月13日(金)角膜センター、市川総合病院見学

千葉病院

- 筑波大学附属聴覚特別支援学校(歯科技工科学生11名、教員5名)
平成26年6月4日(水)千葉病院各診療科、中央技術室、千葉校舎図書館史料室見学

■海外出張

- 佐藤一道講師(口腔がんセンター)
カリフォルニア大学ロサンゼルス校(UCLA)において口腔前癌病変の早期診断に関する共同研究、および米国オーラルメディスン学に関する教育システムの修得のため、平成26年6月1日(日)アメリカ・ロサンゼルスへ出発。帰国は平成27年5月31日(日)の予定。
- 阿部伸一教授(解剖学)
延世大学校歯科大学における特別講義(摂食嚥下機能解剖)および、学生交流打合せのため、平成26年6月1日(日)から3日(火)まで、韓国・ソウルへ出張。
- 阿部伸一教授(解剖学)
台北医学大学における特別講義(歯学部、衛生学部、技工学部合同)ならびにElective Studyの打ち合わせを行うため、平成26年6月8日(日)から10日(火)まで、台湾台北市へ出張。
- 津坂憲政准教授(市病・内科)

EULAR 2014(ヨーロッパリウマチ学会2014)に演題発表のため、6月10日(火)から15日(日)までフランス・パリへ出張。

- 佐竹良之講師、富田大輔助教(市病・眼科)
Descemet Membrane Endothelial Keratoplasty(DMEK) Clinical wetlab course参加のため、6月16日(月)から20日(金)まで、オランダ・ロッテルダムへ出張。
- 武田友孝准教授、鈴木義弘大学院生(スポーツ歯学研究室)
Academy for Sports Dentistry 32nd Annual Symposiumに参加、発表のため、鈴木義弘大学院生は6月17日(火)から24日(火)まで、武田友孝准教授は18日(水)から23日(月)までアメリカ・サンディエゴへ出張。
- 武井 泉教授(市病・内科)
IFCC HbA1c 標準化会議および打ち合わせに日本代表として出席するため、6月21日(土)から26日(木)までトルコ・イスタンブールへ出張。
- 竜 正大助教(有床義歯補綴学)
パーゼル大学・歯科補綴学講座において補綴歯科臨床関連の共同研究および学生教育の調査のため、平成26年6月23日(月)スイス連邦・パーゼルへ出発。帰国は平成27年6月22日(月)の予定。
- 白石 建教授、海苔 聡助教、青山龍馬助教(市病・整形外科)
第30回欧州国際頰椎外科学会参加、および発表のため、6月24日(火)から30日(月)までスペイン・バンプローナへ出張。
- 小橋裕子講師(市病・放射線科)
European Society of Skeletal Radiologyへの参加のため、6月25日(水)から29日(日)までラトビア共和国へ出張。
- 武田友孝准教授、紺野倫代大学院生(スポーツ歯学)
International Society on Oxygen Transport to Tissue 2014に参加、および発表のため、6月27日(金)から7月4日(金)までイギリス・ロンドンへ出張。

大学日誌

平成26年6月

- | | | | |
|--------|---|--------|--|
| 2 (月) | 防火・防災安全自主点検日
臨床研修管理小部会(千病) | 17 (火) | 人事委員会
褥瘡対策委員会(水病)
医療廃棄物委員会(市病) |
| 3 (火) | 感染予防対策チーム委員会(水病) | 18 (水) | 大学院運営委員会
大学院研究科委員会
情報システム管理委員会
国際交流部運営委員会
褥瘡対策委員会(市病) |
| 4 (水) | 解剖慰霊祭
薬事委員会(水病)
臨床検査運営委員会(市病)
リスクマネージャー・ICT会議(千病)
輸血療法委員会(千病)
臨床検査部運営委員会(千病) | 19 (木) | 診療録指導委員会(水病)
医療安全管理委員会(水病)
感染予防対策委員会(水病)
個人情報保護委員会(水病)
病院運営会議(水病)
部長会(市病) |
| 5 (木) | 6年生第1回総合学力試験[～6日]
感染制御委員会・ICT委員会(市病)
手術室運営委員会(市病)
プログラム委員会(市病)
カルテ指導委員会(千病) | 20 (金) | 機器等安全自主点検日
災害対策委員会(市病) |
| 6 (金) | 第3・4・5・6年生定期健康診断
5年生全体集合
医療安全講習会(市病) | 21 (土) | 学年主任・副主任による三者個別面談会
父兄会定時総会
全学生の保護者に対する大学からの修学指導方針の説明
各学年主任・副主任による保護者に対する説明
患者サロン(市病) |
| 7 (土) | 第297回東歯学会例会 | 23 (月) | NSTカンファレンス(市病)
NST勉強会(市病)
千葉病院研修会(千病) |
| 9 (月) | 臨床教育委員会
千葉病院協議会(千病)
個人情報保護委員会(千病)
医療安全管理委員会(千病)
感染予防対策委員会(ICC)(千病)
診療記録管理委員会(千病)
薬事委員会(千病)
千葉校舎衛生委員会(千病) | 24 (火) | 診療記録・情報システム管理委員会(市病)
医療サービスに関する検討会(千病) |
| 10 (火) | 給食委員会(水病)
購買委員会(市病)
理事長就任・退任の式 | 25 (水) | 業務連絡会(水病)
データ管理者会議(水病)
医局長会(水病)
診療録管理委員会(水病)
糖尿病教室(市病) |
| 11 (水) | 第1・4年生HBワクチン接種
リスクマネジメント部会(水病)
救急委員会(市病) | 26 (木) | 倫理委員会・利益相反委員会
教養科目協議会
管理診療委員会(市病) |
| 12 (木) | 栄養委員会(市病)
午後のリサイタル(市病)
業務連絡会(千病)
高度・先進医療委員会(千病) | 28 (土) | 歯科衛生士専門学校 学校説明会 |
| 13 (金) | 実験動物供養祭
入試検討委員会 | 30 (月) | 教務部事務連絡会
内視鏡室委員会(市病) |
| 16 (月) | 第134回歯科医学教育セミナー
環境清掃日
危険物・危険薬品廃棄処理日
教職員前期健康診断[～18日](市病)
医療安全管理委員会(市病)
医療連携委員会(千病) | | |
| 17 (火) | 臨床教授連絡会
講座主任教授会 | | |

平成27年度東京歯科大学入学試験要項

推薦入学選考（一般公募制）

募集人員 約45名（指定校制推薦を含む）
（全募集人員128名中）

（趣旨）

人物・学力ともに優秀で、歯科医療担当者としての能力・適性について高等学校長が責任をもって推薦するもので、本大学への入学を強く希望する者に対し、本大学の選考方法によって入学を許可するものである。

（出願資格）

次の各条件を満たし、かつ高等学校長が責任をもって推薦する者。

1. 平成26年3月高等学校卒業または平成27年3月高等学校卒業見込の者。
2. 人物・性格ともに優れ、健康である者。
3. 入学を許可された場合、必ず本大学に入学することを確約できる者。

選考内容

- (1) 小論文
- (2) 小テスト〔外国語(英語)、数学、理科(物理・化学・生物から1科目選択)〕
(出題範囲は一般入試(I期)に準ずる)

(3) 面接

出願期間

平成26年10月27日(月)から平成26年11月4日(火)
(期間内必着のこと)

選考日・選考会場

選考日 平成26年11月8日(土)
選考会場 東京歯科大学 水道橋校舎本館
東京都千代田区三崎町2-9-18

合格通知日

平成26年11月11日(火)夕刻

入学手続

平成26年11月13日(木)から平成26年11月21日(金)
正午まで

帰国子女・留学生特別選抜

募集人員 若干名（全募集人員128名中）
（趣旨）

帰国子女または日本に留学しようとする外国籍を有する外国人で、本大学において歯科医学教育を受けることを強く希望する者に対し、本大学の選考方法によって入学を許可するものである。

（出願資格）

次の各項のいずれかに該当する資格を有し、入学を許可された場合、日本語での授業を理解できる者。

1. 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者または平成27年3月31日までに修了見込の者またはこれらに準ずる者で文部科学大臣の指定した者。
2. スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局が授与する国際バカロレア資格を有する者で平成27年3月31日までに18歳に達する者。
3. ドイツ連邦共和国の各州において大学入学資格として認められているアビトゥア資格を有する者で平成27年3月31日までに18歳に達する者。
4. フランス共和国において大学入学資格として認められているバカロレア資格を有する者で平成27年3月31日までに18歳に達する者。

選考内容

次の試験を日本語で行う。

- (1) 小論文
- (2) 小テスト〔外国語(英語)、数学、理科(物理・化学・生物から1科目選択)〕
(出題範囲は一般入試(I期)に準ずる)
- (3) 面接

出願期間

平成26年10月27日(月)から平成26年11月4日(火)
(期間内必着のこと)

選考日・選考会場

選考日 平成26年11月8日(土)
選考会場 東京歯科大学 水道橋校舎本館
東京都千代田区三崎町 2-9-18

合格通知日

平成26年11月11日(火)夕刻

入学手続平成26年11月13日(木)から平成26年11月21日(金)
正午まで**一般入学試験 (I期)****募集人員** 約50名(全募集人員128名中)**試験内容**

(1) 学力試験

① 外国語

英語：英語Ⅰ、英語Ⅱ、リーディング、ライティング、およびオーラルコミュニケーションⅠ、Ⅱに共通な事項。ただし、実際に音声を使ったリスニングテストは行わない。

※数学・理科については、新教育課程による科目と、これに対応する旧教育課程の科目との共通の内容を出題範囲とする。

② 数 学

数学：新課程【数学Ⅰ(「(4) データの分析」を除く)、数学Ⅱ、数学A、数学B(「(2) 数列」と「(3) ベクトル」を範囲とする)】

旧課程【数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A、数学B(「(1) 数列」と「(2) ベクトル」を範囲とする)】

③ 理 科

物理、化学、生物の3科目のうち1科目を試験場で選択する。

・物理：新課程【物理基礎、物理】

旧課程【物理Ⅰ、物理Ⅱ(「(3) 物質と原子」の「イ 原子、電子と物質の性質」、「(4) 原子と原子核」を除く)】

・化学：新課程【化学基礎、化学】、旧課程【化学Ⅰ、化学Ⅱ】

・生物：新課程【生物基礎、生物】、旧課程【生物Ⅰ、生物Ⅱ(「(3) 生物の集団」を除く)】

(2) 小論文

(3) 面接

※大学入試センター利用試験(I期)を併願する者は、一般入試(I期)の「小論文」「面接」試験の受験をもって大学入試センター利用試験(I期)の「小論文」「面接」試験にかえる。

出願期間平成26年12月17日(水)から平成27年1月28日(水)
(郵送の場合、必着)

(平成26年12月28日(日)から平成27年1月4日(日)の間および土・日・祝日は窓口での受付は行わない。)

試験日・試験会場

試験日 平成27年2月2日(月)

試験会場 1) 東京会場 東京歯科大学水道橋校舎本館
東京都千代田区三崎町2-9-18
2) 大阪会場 TKP新大阪ビジネスセンター
大阪府大阪市淀川区西中島5-13-9
新大阪MTビル4階
3) 福岡会場 TKP博多駅前シティセンター
福岡県福岡市博多区博多駅前3-2-1
日本生命博多駅前ビル8階

合格通知日

平成27年2月4日(水)夕刻

入学手続平成27年2月5日(木)から平成27年2月13日(金)
正午まで**大学入試センター利用試験 (I期)****募集人員** 13名(全募集人員128名中)**出願資格**

平成27年度大学入試センター試験を受験した者で、本学が利用する教科・科目を解答した者。

試験内容

(1) 大学入試センター試験を受験する際、次の科目を受験しておくこと。

教科	科目	配点
外国語	英語(リスニングを除く)	100点
数 学	「数学Ⅰ・数学A」、「数学Ⅱ・数学B」の2科目 ※旧教育課程履修者は、旧教育課程による下記の2科目を含めた4科目から2科目選択可。 「旧数学Ⅰ・旧数学A」、「旧数学Ⅱ・旧数学B」	100点
理 科	「物理基礎」、「化学基礎」、「生物基礎」から2科目 または「物理」、「化学」、「生物」から1科目 ※旧教育課程履修者は、旧教育課程による下記の科目も選択可。 「物理Ⅰ」、「化学Ⅰ」、「生物Ⅰ」から1科目 ※理科について、2科目を受験した場合は、高得点の科目を合否判定に使用する。(「物理基礎」、「化学基礎」、「生物基礎」については選択した2科目の点数を1科目の得点として扱う)	100点

(2) 小論文

(3) 面接

※一般入試（Ⅰ期）を併願する者は、一般入試（Ⅰ期）の「小論文」「面接」試験の受験をもって大学入試センター利用試験（Ⅰ期）の「小論文」「面接」試験にかえる。

出願期間

平成26年12月17日（水）から平成27年1月28日（水）
（郵送の場合、必着）

（平成26年12月28日（日）から平成27年1月4日（日）の間および土・日・祝日は窓口での受付は行わない。）

試験日・試験会場

試験日 平成27年2月2日（月）

- 試験会場
- 1) 東京会場 東京歯科大学水道橋校舎本館
東京都千代田区三崎町2-9-18
 - 2) 大阪会場 TKP新大阪ビジネスセンター
大阪府大阪市淀川区西中島5-13-9
新大阪MTビル4階
 - 3) 福岡会場 TKP博多駅前シティセンター
福岡県福岡市博多区博多駅前3-2-1
日本生命博多駅前ビル8階

合格通知日

平成27年2月4日（水）夕刻

入学手続

平成27年2月5日（木）から平成27年2月13日（金）
正午まで

一般入学試験（Ⅱ期）

募集人員 約15名（全募集人員128名中）

試験内容

(1) 学力試験（出題範囲は一般入試（Ⅰ期）と同様とする。）

- ① 外国語（英語）
- ② 数学・物理・化学・生物のうち1科目を試験場で選択

(2) 小論文

(3) 面接

※大学入試センター利用試験（Ⅱ期）を併願する者は、一般入試（Ⅱ期）の「小論文」「面接」試験の受験をもって大学入試センター利用試験（Ⅱ期）の「小論文」「面接」試験にかえる。

出願期間

平成27年2月20日（金）から平成27年3月6日（金）
（郵送の場合、必着）

（土・日・祝日は窓口での受付は行わない。）

試験日・試験会場

試験日 平成27年3月14日（土）

試験会場 東京歯科大学水道橋校舎本館
東京都千代田区三崎町2-9-18

合格通知日

平成27年3月17日（火）夕刻

入学手続

平成27年3月18日（水）から平成27年3月25日（水）
正午まで

大学入試センター利用試験（Ⅱ期）

募集人員 5名（全募集人員128名中）

出願資格

平成27年度大学入試センター試験を受験した者で、本学が利用する教科・科目を解答した者。

試験内容

(1) 大学入試センター試験を受験する際、次の科目を受験しておくこと。

教科	科目	配点
外国語	「英語（リスニングを除く）」	100点
数学	「数学Ⅰ・数学A」、「数学Ⅱ・数学B」の2科目 ※旧教育課程履修者は、旧教育課程による下記の2科目を含めた4科目から2科目選択可。 「旧数学Ⅰ・旧数学A」、「旧数学Ⅱ・旧数学B」	100点
理科	「物理基礎」、「化学基礎」、「生物基礎」から2科目 または「物理」、「化学」、「生物」から1科目 ※旧教育課程履修者は、旧教育課程による下記の科目も選択可。 「物理Ⅰ」、「化学Ⅰ」、「生物Ⅰ」から1科目 ※理科について、2科目を受験した場合は、高得点の科目を合否判定に使用する。「物理基礎」、「化学基礎」、「生物基礎」については選択した2科目の点数を1科目の得点として扱う	100点

(2) 小論文

(3) 面接

※一般入試（Ⅱ期）を併願する者は、一般入試（Ⅱ期）の「小論文」「面接」試験の受験をもって大学入試センター利用試験（Ⅱ期）の「小論文」「面接」試験にかえる。

出願期間

平成27年2月20日（金）から平成27年3月6日（金）
（郵送の場合、必着）

（土・日・祝日は窓口での受付は行わない。）

試験日・試験会場

試験日 平成27年3月14日（土）

試験会場 東京歯科大学水道橋校舎本館

東京都千代田区三崎町2-9-18

合格通知日

平成27年3月17日(火)夕刻

入学手続

平成27年3月18日(水)から平成27年3月25日(水)
正午まで

編入学試験A

募集人員 若干名

(編入年次)

第2学年4月に編入

(出願資格)

次のいずれかを満たす者とする。

①4年制大学卒業生または平成27年3月卒業見込の者

②医療技術系短期大学を卒業した者または平成27年3月卒業見込の者

※医療技術系短期大学とは、看護・歯科衛生・歯科技工・臨床検査・診療放射線・理学療法・作業療法・臨床工学・言語聴覚等の分野を履修する短期大学

③4年制大学に2年以上在学し、所定の単位を取得した者

※所定の単位は、総単位数65単位以上とし、うち数学・物理学・化学・生物学に関する科目について合計16単位以上を必要単位数とする。

試験内容

(1)小論文

(2)小テスト(英語・数学・理科に関する基礎学力テスト)

※数学・理科については、数学、物理、化学、生物から1科目選択。

(出題は推薦入試に準ずるが、基礎的な内容を出題する)

(3)面接(グループ面接・個人面接)

※学士等特別選抜Aを併願する者は、編入学試験Aの「小論文」「小テスト」「面接」試験の受験をもって学士等特別選抜Aの「小論文」「小テスト」「面接」試験にかえる。

出願期間

平成26年10月27日(月)から平成26年11月4日(火)
(期間内必着のこと)

試験日・試験会場

試験日 平成26年11月8日(土)

試験会場 東京歯科大学水道橋校舎本館
東京都千代田区三崎町2-9-18

合格通知日

平成26年11月11日(火)夕刻

入学手続

平成26年11月13日(木)から平成26年11月21日(金)
正午まで

編入学試験B

募集人員 若干名

(編入年次)

第2学年4月に編入

(出願資格)

次のいずれかを満たす者とする。

①4年制大学卒業生または平成27年3月卒業見込の者

②医療技術系短期大学を卒業した者または平成27年3月卒業見込の者

※医療技術系短期大学とは、看護・歯科衛生・歯科技工・臨床検査・診療放射線・理学療法・作業療法・臨床工学・言語聴覚等の分野を履修する短期大学

③4年制大学に2年以上在学し、所定の単位を取得した者

※所定の単位は、総単位数65単位以上とし、うち数学・物理学・化学・生物学に関する科目について合計16単位以上を必要単位数とする。

試験内容

(1)小論文

(2)小テスト(英語・数学・理科(物理・化学・生物)の基礎知識問題)

(中学・高校での履修内容のごく基礎的な内容を出題する)

(3)面接(グループ面接・個人面接)

※学士等特別選抜Bを併願する者は、編入学試験Bの「小論文」「小テスト」「面接」試験の受験をもって学士等特別選抜Bの「小論文」「小テスト」「面接」試験にかえる。

出願期間

平成27年2月20日(金)から平成27年3月6日(金)
(郵送の場合、必着)

(土・日・祝日は窓口での受付は行わない。)

試験日・試験会場

試験日 平成27年3月14日(土)

試験会場 東京歯科大学水道橋校舎本館
東京都千代田区三崎町2-9-18

合格通知日

平成27年3月17日(火)夕刻

入学手続

平成27年3月18日(水)から平成27年3月25日(水)
正午まで

学士等特別選抜A

募集人員 若干名(全募集人員128名中)

(入学年次)

第1学年4月に入学

(出願資格)

次のいずれかを満たす者とする。

①4年制大学卒業者または平成27年3月卒業見込の者

②医療技術系短期大学を卒業した者または平成27年3月卒業見込の者

※医療技術系短期大学とは、看護・歯科衛生・歯科技工・臨床検査・診療放射線・理学療法・作業療法・臨床工学・言語聴覚等の分野を履修する短期大学

③4年制大学に2年以上在学し、所定の単位を取得した者

※所定の単位は、総単位数65単位以上とし、うち数学・物理学・化学・生物学に関する科目について合計16単位以上を必要単位数とする。

試験内容

(1)小論文

(2)小テスト(英語・数学・理科に関する基礎学力テスト)

※数学・理科については、数学、物理、化学、生物から1科目選択。

(出題は推薦入試に準ずるが、基礎的な内容を出題する)

(3)面接(個人面接)

※編入学試験Aを併願する者は、編入学試験Aの「小論文」「小テスト」「面接」試験の受験をもって学士等特別選抜Aの「小論文」「小テスト」「面接」試験にかえる。

出願期間

平成26年10月27日(月)から平成26年11月4日(火)
(期間内必着のこと)

試験日・試験会場

試験日 平成26年11月8日(土)

試験会場 東京歯科大学水道橋校舎本館
東京都千代田区三崎町2-9-18

合格通知日

平成26年11月11日(火)夕刻

入学手続

平成26年11月13日(木)から平成26年11月21日(金)
正午まで

学士等特別選抜B

募集人員 若干名(全募集人員128名中)

(入学年次)

第1学年4月に入学

(出願資格)

次のいずれかを満たす者とする。

①4年制大学卒業者または平成27年3月卒業見込の者

②医療技術系短期大学を卒業した者または平成27年3月卒業見込の者

※医療技術系短期大学とは、看護・歯科衛生・歯科技工・臨床検査・診療放射線・理学療法・作業療法・臨床工学・言語聴覚等の分野を履修する短期大学

③4年制大学に2年以上在学し、所定の単位を取得した者

※所定の単位は、総単位数65単位以上とし、うち数学・物理学・化学・生物学に関する科目について合計16単位以上を必要単位数とする。

試験内容

(1)小論文

(2)小テスト(英語・数学・理科(物理・化学・生物)の基礎知識問題)

(中学・高校での履修内容のごく基礎的な内容を出題する)

(3)面接(個人面接)

※編入学試験Bを併願する者は、編入学試験Bの「小論文」「小テスト」「面接」試験の受験をもって学士等特別選抜Bの「小論文」「小テスト」「面接」試験にかえる。

出願期間

平成27年2月20日(金)から平成27年3月6日(金)
(郵送の場合、必着)
(土・日・祝日は窓口での受付は行わない。)

試験日・試験会場

試験日 平成27年3月14日(土)
試験会場 東京歯科大学水道橋校舎本館
東京都千代田区三崎町2-9-18

合格通知日

平成27年3月17日(火)夕刻

入学手続

平成27年3月18日(水)から平成27年3月25日(水)
正午まで
<学納金>全入試制度共通

入 学 金	600,000 円	(入学時のみ)
授 業 料	3,500,000 円	
歯学教育充実費	4,300,000 円	(入学時のみ)
施設維持費	1,000,000 円	
合 計	9,400,000 円	

[訂正]

第266号の記事中に次の間違いがありましたので、お詫びして訂正致します。

21頁左下記事タイトルの氏名 (誤)力武春奈 → (正)力武春菜

東京歯科大学広報 編集委員

橋本貞充 (委員長)

阿部潤也 石塚順子 井上直記 上田貴之 鎌田美樹 椎名 裕 中村弘明
日塔慶吉 旗手重雅 久永竜一 藤倉隆行 前田健一郎 百崎和浩 山本祐樹
渡辺 賢 (平成26年6月現在)



編集後記

平成26年6月10日夕刻。

水道橋校舎新館血協記念ホールの席を埋めた教職員が見守るなか、3期7年1ヶ月の学長職とそれに続く1期3年の理事長職を務められた金子 譲先生が、花束を胸に、拍手に送られながら、56年間の東京歯科大学での日々の記憶と共に、にこやかな笑顔で会場をあとにされました。

東京歯科大学の未来へのバトンを託された新理事長の水野嘉夫先生は、緊張の中にも親しみ深く、集まった人たちに語りかけられました。その言葉の中にあっただのは、東京歯科大学で共に誠意と情熱を持って力を尽くしてくれる、仲間たちへの感謝のころ。水道橋から新しく始まる東京歯科大学の将来を担って、水野嘉夫理事長の時代が始まります。「あい・う・え・おん」の言葉を胸に。

毎号の大学広報の紙面を埋める「今」を記録した活字の重なりの中に、その時代の東京歯科大学を、さまざまな形で支え、創りあげた、数多くの仲間たちの軌跡が、埋め込まれていきます。

未来の人たちが読み解いていく、先人の軌跡のアーカイブスとして。

(広報・公開講座部長・橋本貞充)



理事長就任・退任の式を終えて
水道橋校舎新館の玄関に立つ
水野嘉夫新理事長と井出吉信学長